

令和6年度史跡武蔵国分寺跡保存整備工事について

1 件 名

- ①整備工事 史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）第一期整備工事（中枢部周辺地区〔南門地区〕）第二工区その3（参道範囲・北東範囲）
- ②実施設計 同 第二工区その4（南東範囲・区画溝範囲・南西範囲）

2 期 間

令和6年7月頃～令和7年2月28日（予定）
8月9日（金）・10日（土）に市民説明会を開催予定

3 内 容

- ①参道範囲…参道表示、伽藍地区画溝・南門・木橋の遺構復元、
遺構解説板・大型地形模型設置・名称標識の設置など
- ②北東範囲…車止め・街灯の設置、地面整備など



参道範囲全景（北から）



南エントランス広場（南東から）



北東範囲全景（北西から）



区画溝範囲（東から）

南門地区の実施設計 (令和4～7年度)

令和4年度

完了

南門地区樹木の修景工事
(第2工区 その1)

令和7年度工事地区

第2工区 その4

令和6年度 工事地区

第2工区 その3

第2工区 その4

令和7年度工事地区

令和7年度工事地区

第2工区 その4

南エントランス広場

※写真はイメージです。

大型地形模型

総合案内板

名称標識

南門・木橋

四阿(あずまや)



史跡地周辺の動線

対象範囲全域

- ① 史跡内の回遊性の向上 ② 利便施設の適切な配置
③ 防犯防災対策の検討 ④ 維持管理の軽減対策の検討

平成 21 年 2 月に策定した「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）整備実施計画」に基づき、国史跡武蔵国分寺跡の第一期整備として示された事業計画のうち、伽藍中枢部周辺地域〔南門地区、北方・推定中院地区、塔地区〕を対象に、保存整備工事の基本事項を定めた指針です。南北の伽藍中軸線をより明確化して、史跡の範囲・広がりを見せるようにするとともに、より市民に親しまれ、活用される史跡とする整備目標を掲げました。

対象範囲全域で、史跡内の回遊性向上、利便施設の適切な配置、防犯・防災対策や維持管理の軽減対策の検討を行います。

北方・推定中院地区

令和8・9年度

伽藍中枢部の北側は、法隆寺所蔵『大菩薩藏經』の奥書にある「中院」跡に比定され、国分寺崖線下には大型掘立柱建物、須恵器大甕を据えた特殊な建物跡のほか、伽藍中枢部の北西部を遮断する築地塀・溝跡、伽藍地西辺区画溝などが発見されています。これらの遺構を整備するとともに、現在、史跡地へのメインアクセスが北側のJR国分寺駅・西国分寺駅からである現状を踏まえて、史跡主要部へのエントランスとして史跡全体、および周辺の関連遺跡（武蔵国分尼寺・東山道武蔵路）の案内を行える空間とします。

伽藍中枢地区

大半部分は、平成23～令和2年度に施工して整備を終了しました。中門東側の南東部は南門地区の整備工事にて整備し、講堂北側の北西部は、北方・推定中院地区の整備工事で整備します。

塔地区

令和10年度～

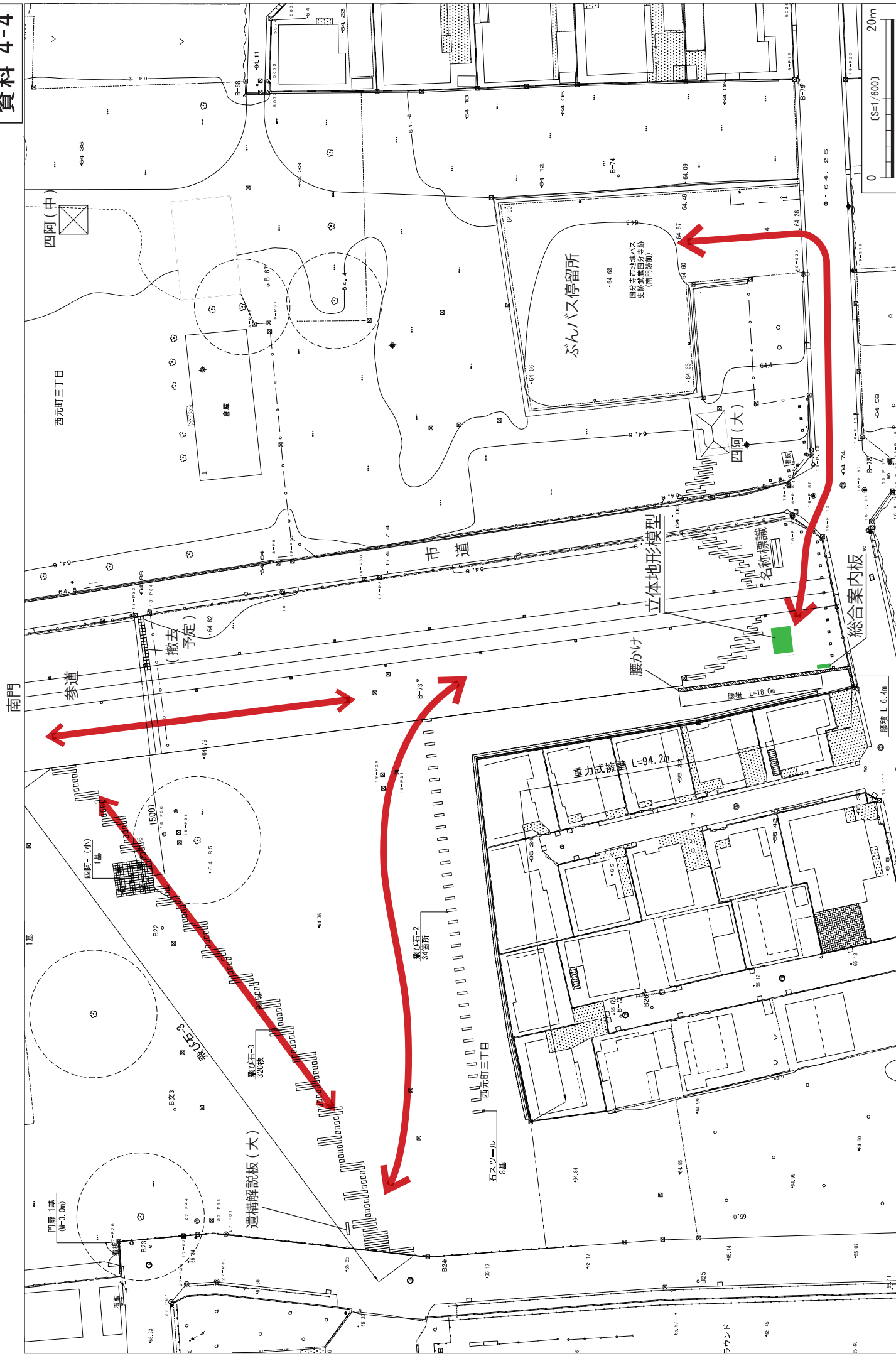
国分寺のシンボルでもある七重塔が存在した地区です。武蔵国分寺では、二つの塔遺構が発見されており、礎石が現存する塔跡1の本格的な整備は将来行う予定です。さらに、平成15年に新たに発見された塔跡2や伽藍地区画溝を表示することにより、伽藍地の南東隅にあたる当該地区に塔が存在したことを顕在化させます。また、塔の南側は苑院・花園院に比定されていることから、道路の一部廃道を検討するとともに適正な樹木間伐等の緑地整備を行い、歴史性を踏まえた活用（体験学習、市民交流活動等）が行えるよう整備を進めます。

南門地区

令和4～7年度（右ページ部分）

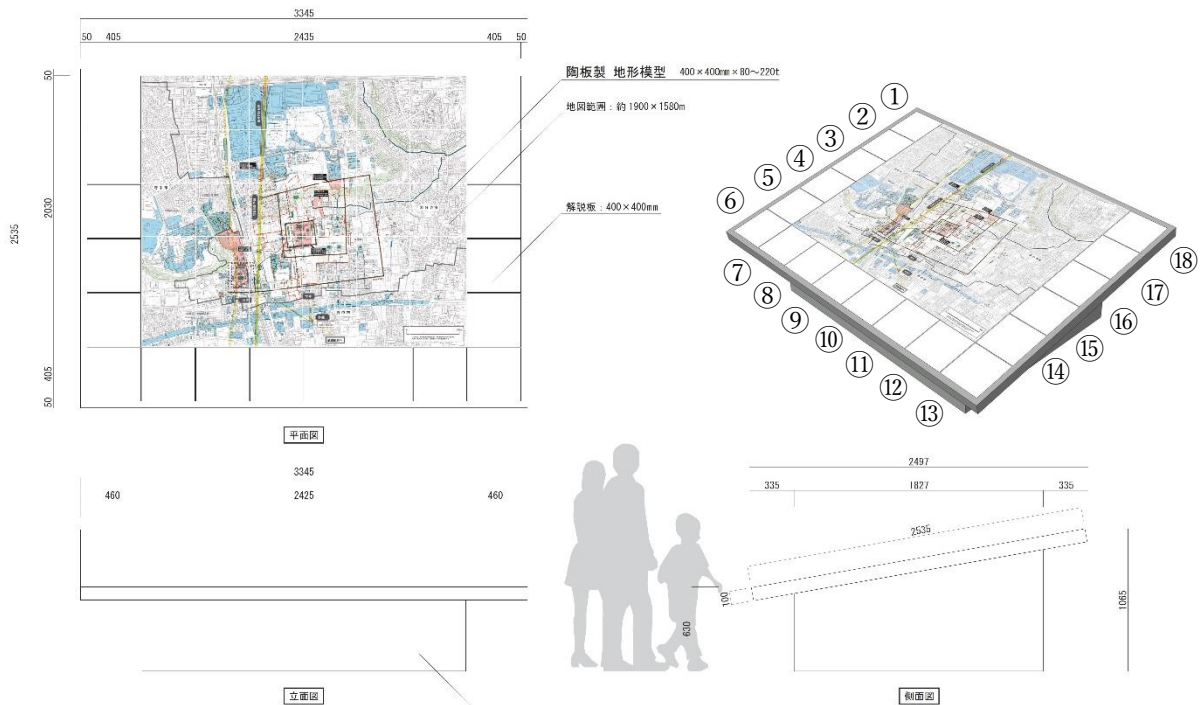
武蔵国分寺の南側正面入口にあたり、基本設計の中心となる地区です。一部道路を廃道し、南門跡および参道跡を整備することにより、伽藍中枢地区に向けた視認性を確保するとともに、伽藍地南辺区画溝を表示して寺院（伽藍地）の南限を示します。さらに南方に離れた参道口方面（府中市栄町）への導線を誘導し、南門地区西側に隣接する市立第四中学校付近は修理院に比定されているため、その歴史性を踏まえた活用（体験学習・市民交流活動等）が行えるよう整備を進めます。





南エントランス広場周辺図

大型地形模型の解説パネルについて



- ①東山道武蔵路跡
- ②東山道武蔵路跡（写真）
- ③伝鎌倉街道・伝祥応寺・塚跡
- ④伝鎌倉街道・伝祥応寺・塚跡（写真）
- ⑤尼寺
- ⑥尼寺（写真）
- ⑦文化財資料展示室
- ⑧参道口・国府
- ⑨名称
- ⑩名称
- ⑪国分寺
- ⑫国分寺（写真）
- ⑬僧寺（写真）
- ⑭僧寺
- ⑮おたかの道湧水園・武蔵国分寺跡資料館
- ⑯国分寺崖線と湧水（写真）
- ⑰国分寺崖線と湧水
- ⑱旧石器・縄文時代の遺跡